

黒部源流の山々を歩く

2022年8月

雑木の会 佐藤三枝子

北関東から上信越へ雨の山旅に続き、夏山 part II も全行程の 3/4 が雨という、今夏の特徴か有り難くない天気巡りの巡り合わせ、留守の家人や山仲間に関心配を掛けながらもそれでも何とか計画の通り歩くことが出来た

日程：8月17日～8月20日

山域：黒部源流域(折立～薬師峠～雲の平～水晶岳～奥黒部ヒュッテ～黒部ダム)

天候：初日雨、2日目雨一時曇り、3日目晴れ、4日目曇後雨

メンバー：中島昭子 佐藤三枝子

初日 折立～薬師峠キャンプ場

雨の洗礼を受けながら出発、三角点を過ぎ本来見通しがよくなるところに出ても回復の兆しなく、雨に濡れるミヤマリンドウ、チングルマ果穂にお出迎え頂く、今日の宿、薬師峠に近づくころには可愛らしいライチョウ親子にお出迎え頂き、癒しも束の間、雨中の設営作業となる

2日目 薬師峠～雲ノ平キャンプ場

明け方近く雷鳴轟く最悪の天気、テント内の水溜まり汲みだし作業に追われるこのまま水浸しのテントで停滞か、太郎平小屋へ引越しか・・・ いっそのことテントを担いで前進か・・・

兎に角テントを撤収、まずは太郎平小屋で情報収集、それからを考えよう

小屋の情報では薬師沢の先の橋が傷んでいる、今日はまだ薬師沢小屋の人が上がってきていないので、渡れるかどうか確かな事は分からないと・・・、ダメなら引き返すしかない、取敢えず想定できる事は頭に入れて、薬師沢小屋を目指す
薬師沢小屋でも先の橋の状態はよくないとの事、それでもと雨が上がったころ、件の橋に出る、情報通り落ちかけてはいたが、水面から低く水流も少ないところから、流れの中の岩を足場に先へと進む
急登を超え、平坦なアラスカ庭園に出てほっとするも、再び小雨が降りだした頃今宵の宿となる雲の平キャンプ場へ

3日目 雲ノ平キャンプ場～奥黒部ヒュッテ

湿り気を帯びたウェアの冷たさで1時半に目覚める、計画を繰り上げ出発する
ようやく、女神さまに微笑んで頂いたようで、久々の朝焼けに心は自然と軽くなる
水たまりはもう十分と思っていた昨日までと違い、地唐の水面さえ今日は美しい
と感じる、カメラの出番も自然と多く、やはり晴れの天気には勝るものはない

槍ヶ岳、乗鞍岳、笠ヶ岳もクッキリ



薬師岳、真砂岳、赤牛岳、立山、針ノ木の中に黒部湖
彼方に後立山連峰、鹿島槍ヶ岳、五竜岳、白馬方面まで



赤牛岳からの読売新道は、覚悟以上に長い降りの始まりだった
到着が遅くなった奥黒部ヒュッテテント場は受付が閉まった後

4日目 奥黒部ヒュッテ～黒部湖

最終日の朝は曇り空、それでも間もなく雨が降り出すとの予報

テント料金精算に行くと、親切な小屋の方からパンと味噌汁をご馳走になる

今日は、昨日までのような高低差があまりなく、どちらかと言えば水平に近い登山道となる「はず」が、思いの外、丸木橋攻めの一日が始まった、小さい登り降りの連続

やがて約束のように雨が降り出す頃、黒部ダム船着き場へ、針ノ木から降ってきた人、私達と同じく読売新道を降ってきた人、同舟は都合8名

ようやく対岸に渡してもらい、後は黒四ダムに沿って歩くだけ、の「はず」が、ここでも長い長い道中は、梯子登り降りの連続、時には崩れた木の梯子につかまり胸まで水に浸かりながら超え、やっとロジックろよんへ

トロリーバス最終時刻が少し気にかかってきたラスト 1.2 kmを小走り気味で、何とか最終1便前に滑り込む

大町温泉郷で途中下車、3日間濡れ尽くした身体を湯に浸すと、脱力感と共に不思議にあの辛ささえ忘れていくような感覚を覚える

松本駅で乗り継いだ夜行バスのシートに身を任せながら、次の山旅などしばらく考えたくないと思っている

しかし、しばらく経てば、それを忘れたように、又、どこかの山を歩いているのだろう、いつものように